

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

## 産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会

〒807-8555

北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

産業医実務研修センター

TEL (093) 691-7171

FAX (093) 692-4590

発行責任者：地方会長 大久保利晃

(題字 倉恒匡徳 筆)

第13回中・韓・日  
産業保健学術集談会

事務局長

東 敏 昭 (産業医科大学教授)

去る5月17日～19日、中国の北京医科大学にて「第13回中韓日産業保健学術集談会」(劉世傑会長、王生事務局長)が開催された。本会の前身は1982年ソウルで第一回を開催した韓・日産業保健学術集談会で、13回目となる今回から、日本代表は館正知先生(産業医科大学理事)から大久保利晃先生(産業医科大学副学長)に、事務局長は乾修然先生(前京都工場保健会会長)から、東敏昭(産業医科大学教授)に受け継がれることとなった。

今回の参加者は日本52名、韓国52名、中国150名で、総計250名であった。口演発表が主体となるため、2日目からは会場の2つを国際、1つを中国語による中国国内からの参加者によるセッションも設けられた。第1日目には職業性呼吸器疾患をテーマとしたワークショップ(日本側世話人:森本泰夫産医大教授)が開催され、参加者は3ヶ国から80名以上で、熱心な議論が展開され、日本・韓国でも未だに重要なものであると同時に、中国においては大きな課題であることがわかる。

第2日目(本会1日目)は開会式、キーノートスピーチ



左から、著者(東 敏昭)、北京医科大学 Wang Sheng 教授(中国側事務局長)、カソリック医科大学 Lee Se-Hoon 教授(韓国側事務局長)



から始まり、各国代表の挨拶の後、中国の劉世傑代表に「3国の会を実現された功績」に感謝状並びに記念のプレートとの授与が行われた。なお、中国の劉世傑北京医科大学名誉教授は病床にあったため、小木和孝前労研所長の発案により「千羽鶴」に参加者からの署名をもらい、参加者の集合写真とともに病床に届けられた。

キーノートでは、各国の代表から「産業保健の現状と課題」が紹介され、位相の差こそあれ、3国には共通の課題があること、今後の情報交換の必要性和、実際の産業保健サービスおよび職場改善活動が重要なことが浮かび上がる。2日目からのフリーセッションでは各国から広範なテーマについての発表が行われた。

ポスターセッションでは、日本からの発表者のコンピュータを用いたディスプレイもあり、80名以上の熱心な議論が行われた。シンポジウムは「中小企業(事業場)における産業保健」をテーマとしたが、この分野の重要性と具体的な行動について今後もテーマしつづける必要があることを痛感した。また会議全般に、議論を引っ張ったのは広い知識と見識に基づいたシニアの方々であった観がある。

今回の主催国による企画には、北京のビール工場見学、歓迎バンケット、懇親会もあり、参加者の多くが満足したものと思う。

次回2002年は、5月18～20日、韓国プサンで開催されることになっている。言葉の問題はあっても、参加しやすく、実のある情報交換・交流が図れる「場」としての意義が大きい、一味違った「国際会議」と考え、是非、積極的な参加をお願いしたい。

**特集：平成13年度九州地方会学会****日本産業衛生学会  
九州地方会学会を終えて**

平成13年度日本産業衛生学会九州地方会学会長

**福光 ミチ子**

(BOOCS情報センター福岡)

平成13年7月6日(金)、7日(土)の二日間、九州大学医学部同窓会館において、平成13年度日本産業衛生学会九州地方会学会が開催されました。21世紀初頭の学会で、学会長を産業看護職に依頼された事は大変光栄なことであり、大役を果たすために早速企画実行委員会を結成し、通算15回(会場準備を含め)の打ち合わせを行ないました。プログラムの内容については、産業保健現場の問題点を出来る限り浮き彫りにし、具体的な解決策まで考えられるテーマを選びました。今回は特別講演「アウトソーシング時代に求められる産業保健専門家の資質について」と、シンポジウム「雇用形態の多様化と産業保健のあり方について」の両方を企画しました。一般講演の演題も例年に劣らず28題となり、自由集会は4集会となりました。

開催初日は梅雨最後の大雨になりましたが、210名の参加者(会員178名・非会員32名：県内内訳 福岡145名・佐賀6名・長崎17名・大分5名・熊本12名・宮崎9名・鹿児島12名・沖縄4名)を迎える事が出来ました。一般口演会場では、メンタルヘルス・環境管理・作業管理・健康教育・健康診断毎に活発な討論が行なわれました。

1年間の準備期間から、終わってみるとあっという間の二日間だった様に感じます。緊張感が去ると何故か快い脱力感に見舞われたのは、私だけではないようです。

学会長という重責を大事なく果たし得ましたのは、地方会長をはじめ各理事、事務局の皆様の力添えがあり、会員の方々のご協力を頂いたお陰である事を深く感謝いたしております。また今回ご協賛を申し出て下さった各会の方に



もお礼を申し上げます。又最初から最後まで力強い協力を頂いたOHNウェルネス会・裏方をしっかり務めて下さったBOOCS情報センターの皆様に心より深く感謝申し上げます。

最後に、産業看護部会の各委員の事業所を取り巻く状況が厳しくなっている事もあり、会議の開催を含めたグループ活動が行いにくく、委員の世代間の意志疎通も出来ていないのではとの危惧を抱いていた所です。しかし、今学会を通して、若い力と行動力、それを支える先輩が世代を超えて結集する事が出来た事は大きな収穫であり、今後の産業看護部会活動に大きく期待する所です。

**シンポジウム「雇用形態の多様化  
と産業保健のあり方」—すべての  
労働者に産業保健サービスを—を  
聴いて**

日笠 理恵(福岡県市町村職員共済組合)

本年の九州地方会学会では、座長を九州大学健康科学センターの馬場園明先生と朝日新聞社健康保険組合の西雅子保健婦が務め、5人の提言者を招き、標記のテーマでシンポジウムが開催された。今回は「雇用形態の多様化に伴う問題」、「今後産業保健従事者がどのような視点でどのように対応していくべきなのか」などについて様々な立場からの提言を伺った。

まず、稗田慶子福岡県副知事より総論的な見地から、40歳以上の福岡県民の健康状況として対象(老人保健法と労働安全衛生法)により格差があるとの指摘があった。次に産業保健従事者の立場から住徳松子アサヒビール(株)博多工場保健婦より、数社の産業保健婦へのアンケート結果から現場の生の声が発表され、大企業ならではの福利厚生的意味合いの強かった健康管理活動もその方法、考え方を変える必要があるとの指摘があった。次に辻本育子女性共同法律事務所弁護士より、女性労働者の問題として賃金格差が大きいま女性労働者が増えているが、労働関係の法律の改定は女性労働者にとっては改悪といえるものであること、また本学会ではまだまだ取り上げられていないセクシャル・ハラスメントとPTSDについての問題が提起された。次に村上守日本労働組合総連合会福岡連合会会長より労働組合の立場から、欧州連合(EU)に象徴される新しい経済・労働政策の動きが日本における労働市場に大きな影響をあたえるので、グローバルな視点をもって現状を把握



し、むしろ多様化を雇用のパイを広げるものとして積極的に受け入れ今後の対応を考えていくべきとの指摘があった。次に田崎和祐暉福岡中央労働基準監督署署長より労働行政の立場から、中年男性労働者の自殺が増加している背景には日本特有の男性観がストレスを増加させているとの指摘があった。最後に兵働邦彦福岡県医師会常任理事産業保健担当より指定発言があり、福岡県下の地域産業保健センターの活動上の課題や自身の産業医活動を通じて小規模事業所での外国人を含めた労働者の厳しい現状の紹介があった。

提言後の討論を通じて、雇用形態の多様化が弱者の抱えている問題（ジェンダー・国籍等）に直結し問題を複雑にしているの、いずれにしても労働者のサインを見逃さないよう現場に行って話を聴き、労働者を中心として様々な専門家が力を合わせていくことが求められていることが再認識された。

各提言者によるそれぞれの立場からの端的な提言と座長の的確な進行により、提言者間の討論に十分な時間が割かれ、聞き応えがあった。企画に参加した立場で言うのも気がひけるが、昨年の北九州の第73回学会総会でのメインシンポジウムにも劣らない大変充実した、また翌日の大久保地方会長の特別講演にも繋がる内容であったと思う。

## 特別講演「アウトソーシング時代に求められる産業保健専門家の資質について」をきいて

藤原 直子（西日本技術開発株式会社）

近年価値観の変化に伴い雇用形態も変化してきている。アウトソーシングは悪いこととして受け取られがちであるが、時代の流れを考えるとアウトソーシングは避けられないものである。それに伴い産業保健の専門家として求められる資質の向上を図る必要があり、日本産業衛生学会で発足させている医師・看護職の認定制度を活用していくことが重要であろう。また学会の生涯教育委員会で検討中のガイドライン（16ステップある）がこれからの認定制度の内容を向上させると期待される。

生涯教育の対象職種としては医師だけでなく、看護職・ハイジニスト・検査技師・心理の専門家も含まれるべきであり、それらの職種の共通の専門家としての資質として最

低限必要な項目として（ガイドライン16ステップの中）  
1. 産業保健の活動の課題を理解する。2. 必要情報を収集しニーズを把握する。3. 産業保健方針と計画を確立する。4. 労働者の健康影響を評価する。5. 健康増進活動を促進する。6. 作業適正と病後復職を支援する。7. 産業保健活動を監査する。8. コミュニケーション能力を発揮することなどがあげられる。

教育・訓練を実施する機関、施設の整備や大学院修士課程などの卒後教育機関の設置や遠隔教育コースなどが望まれる。

また重要なものとして評価者、評価の時期、評価方法など考慮すべきことはあるが、自己監査も含めシビアな評価がされなければならない。

というお話があり最後に、健康な人をより健康な方向に指導する学問体系、倫理指針の確立、教育プログラム、専門家としての組織づくり、監査制度が必要であり、それと共にアウトソーシングによりこれまで蓄積されてきた保健情報が散逸されないような情報システムを作る必要があるという問題点の提起と提言がなされた。

特別講演を聴きながら、アウトソーシングを真剣に自分に関わる事として考えてこなかったことに気づかされた。

卒後教育の施設や遠隔教育のコースなどが準備されたとしても産業看護職の場合いったん就職するとなかなか数日間研修のため職場を離れることは難しい。まして合理化のため人員削減がなされた場合はなおさらである。

将来を見据え自分も産業保健に携わるものの一員として資質向上を図る努力をしていかなければ・・・と思った。

最後に言われた「解決のために自分から歩み出さないといけない時期にきている」という一言が強く印象に残った。



会場風景

## 日本産業衛生学会九州地方会 平成12年度事業及び決算報告並びに平成13年度事業計画及び予算（案）

### I 平成12年度事業報告

実施年月日	実施事項及び概要
1) 平成12年4月24-26日	第73回日本産業衛生学会を九州地方会が主催した。
2) 同 6月16日	第1回理事会（議長：大久保利晃）江山楼浦上支店（長崎県）にて開催（出席15名、委任状4名）、総会議事に同じ。
3) 同 6月17日	評議員会（議長：竹本泰一郎）長崎大学・医学部にて開催（出席31名、委任状16名）、総会議事に同じ。
4) 同 6月17日	総会（議長：有澤孝吉）長崎大学・医学部にて開催（出席50名、委任状432名）。
5) 同 6月17-18日	地方会学会（学会長：竹本泰一郎）長崎大学・医学部にて開催された。 特別講演：1題 教育講演：2題 一般講演：22題で開催された。参加者数：141名
6) 同 7月8-9日	第12回産業神経・行動学研究会がコーワパークホテル湯布院倶楽部で開催された。参加者数：102名
7) 同 8月31日	地方会ニュース「産衛九州」第8号発行。
8) 同 11月18日	産業看護研究会が福岡県看護等研究研修センターで開催された。参加者数：74名
9) 同 11月18日	健康管理研究会が福岡県看護等研究研修センターで開催された。参加者数：65名
10) 同 11月19日	第100回九州医師会学会第7分科会産業医学会-第1回九州産業医教育講演会が熊本市産業文化会館代5・6会議室で開催された。参加者数：113名
11) 同 12月23日	第2回理事会（議長：大久保利晃）福岡産業保健推進センター会議室にて開催予定。
12) 平成13年2月28日	地方会ニュース「産衛九州」第9号発行
13) 同 3月31日	労働者の生涯健康の支援を考える研究会がホテルセントラザ博多で開催された。参加者数：24名

### II 平成12年度収支決算報告

#### 1. 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
平成12年度交付金	966,000	999,000	33,000	@1,500×666人
平成11年度繰越金	648,704	648,704	0	
雑収入	105	585	480	銀行利息
地方会活動奨励費	0	1,167,936	1,167,936	
計	1,614,809	2,816,225	1,201,416	

#### 2. 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
地方会学会開催費	200,000	200,000	0	
研究会補助金	250,000	250,000	0	5件送金
次期役員選挙費用積み立て	60,000	60,000	0	
連絡通信費	130,000	94,220	△ 35,780	
消耗品費	20,000	11,414	△ 8,586	
会議費	60,000	45,700	△ 14,300	
地方会ニュース発行費	220,000	176,620	△ 43,380	第8, 9号発行費
予備費	674,809	0	△ 674,809	
計	1,614,809	837,954	△ 776,855	

平成13年4月16日 現時点の収支残 2,098,271円（平成12年度現時点の次期役員選挙費用積み立て総額120,000円を含む）

## Ⅲ 各県別会員数 (平成13年6月25日概数)

	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計	(会費納入済*)
13年度	441	21	33	61	46	21	59	18	700	530
12年度	425	24	33	59	52	20	57	21	691	666
11年度	431	24	33	52	53	20	50	20	683	644
10年度	450	28	30	52	61	22	49	24	716	586

\*平成13年6月25日現在

## Ⅳ 平成13年度事業計画 (案)

1. 地方会学会の開催 学会長：福光ミチ子 福岡にて開催
2. 研究会の開催 ○健康管理研究会 ○産業看護研究会 ○労働者の生涯健康の支援を考える研究会  
○第101回九州医師会学会第7分科会産業医学会第2回九州産業医教育講演会  
○「失業と健康」研究会 ○第43回産業精神衛生研究会
3. 地方会ニュース「産衛九州」第10・11号の発行
4. その他

## Ⅴ 平成13年度予算 (案)

## 1. 収入の部

(単位：円)

科 目	12年度実績	13年度予算
交付金	999,000	999,000
繰越金	648,704	2,098,271
雑収入	585	585
地方会活動奨励費	1,167,936	0
計	2,816,225	3,097,856

注：12年度に該当する予算項目に限って作成した。

## 2. 支出の部

(単位：円)

科 目	12年度実績	13年度予算
地方会学会開催費	200,000	200,000
研究会等補助金	250,000	300,000
次期役員選挙費用積み立て	60,000	60,000
連絡通信費	94,220	130,000
消耗品費	11,414	20,000
会議費	45,700	60,000
地方会ニュース発行費	176,620	220,000
予備費	0	2,107,856
計	837,954	3,097,856

## 研究会・研修会その他案内 その1

## ○第43回産業精神衛生研究会

日 時：平成14年3月2日(土) 9:30-16:30

会 場：アクロス福岡国際会議場

(福岡市中央区天神1-1-1)

会 長：永田頌史 (産業医科大学産業生態科学研究所)

メインテーマ：メンタルヘルス対策の具体的な進め方

一般演題募集：抄録A4・1枚1,000字程度

問合先：産業医科大学産業生態科学研究所

精神保健学教室内

TEL 093-691-7475 FAX 093-692-5419

## ○第2回「失業と健康」研究会

日 時：平成14年1月12日(土)14:00-17:00

会 場：久留米大学医学部 筑水会館 小会議室

内 容：第3回ICOH「失業と健康」委員会(アデレード)報告  
国内関連演題の発表

問合先：〒830-0011 久留米市旭町67

久留米大学医学部環境衛生学教室内

「失業と健康」研究会事務局 石竹達也

TEL 0942-31-7552 FAX 0972-31-4370

E-mail kankyo@med.kurume-u.ac.jp

## 女性会員の声

## 組織的な健康づくり活動のなかで生活習慣改善を支援する

旭化成健康保険組合保健サービスセンター 柳田 美智子

旭化成延岡支社では、今春、健康管理センターが発足し、オリジナルの「健康に関する基本理念」(図1)を全事業場に掲げ、新体制のもとで新たな健康づくり活動を開始したところ。 (図2)

新体制の特徴は、「ラインによる健康づくり活動」と「個人による健康づくり活動」、そして「健康管理センターによる健康支援活動」の三者一体の協力体制が強化されたことにあります。

特に、「ラインによる健康づくり活動」では、延岡支社の全組織を44に分割した健康管理単位部場を定め、それぞれの部場長の下に更に部場健康管理責任者を配置して、より一層のライン活動の強化を図っています。

そのなかで私達、健康指導グループ(保健婦5名、栄養士4名の女性集団)は主に生活習慣病を中心に、1,660人の健康要管理者を対象に開催する「ステップアップ教室」における保健栄養指導を担当しています。

「ステップアップ教室」は(図3)のような流れで実施しています。この教室の目的は、対象者に各生活習慣病の予防と管理の方法について再度、正しく理解していただき、運動の実地指導も受けたいうえで、自主管理のための健康づくり目標と実践項目を作っていただくことです。

あわせて健康指導グループとしては、個別保健栄養指導の際に、生活習慣やメンタル面などの潜在的な問題点をいち早く察知することも重要なポイントと考えています。

そのためには、対象者が気軽に話せる人間関係や雰囲気づくりが必要のため、常に相手と同じ土俵に立ち、更に相手のニーズに合わせた話し方をするよう心がけています。

最後に、平成元年から私達が行ってきました「ヘルスケア教育入院制度(高血圧・糖尿病・肥満)」、「旭化成延岡方式のTHP」、「肥満教室」などの経験を通して以下のようなことを考えています。

改善した生活習慣を長期間継続することは容易なことではなく、途中で挫折する人も多々見られます。そのような時も本人が後ろめたい気持ちにならず、私達とのコミュニケーションが気軽にとれるような、また困った時にこそ思い出してもらえる存在であり続けたいと願っているところです。

なお、この投稿を読まれて何かご意見がありましたら、下記にご連絡ください。気軽に意見交換をいたしましょう。

E-mail yanagita.mh@om.asahi-kasei.co.jp

TEL 0982-22-2940 FAX 0982-22-2946

## 研究会・研修会その他案内 その2

## ○第101回九州医師会医学会第7分科会(産業医学会)

第2回日本産業衛生学会九州地方会教育講演会

分科会長: 大久保利晃(九州地方会長)

日時: 平成13年10月21日(日) 9:30-16:30

会場: エルガーラ大ホール(福岡市中央区天神1-4-2)

問合せ先: 〒812-8551 福岡市博多区博多駅南2-9-30

福岡県医師会内

第101回九州医師会医学会第7分科会係

TEL 092-431-4564 FAX 092-411-6858

## ○産業看護研究会

日時: 平成13年12月15日(土)

会場: 未定

テーマ: メンタルヘルス関連(講師に依頼中)

講師: 岡山大学 川上憲人 教授

問合せ先: 九州地方会産業看護部会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目19-17

トーカー博多第5キャステール311

BOOCS 情報センター福岡 福光ミチ子

TEL 092-434-9611 FAX 092-477-7612

## ○労働者の生涯健康の支援を考える研究会

日時: 平成14年3月9日(土)

テーマ: 会場: 未定

## ○平成14年度日本産業衛生学会九州地方会学会

日時: 平成14年6月14日(金)-15日(土)

会場: 鹿児島県医師会館

学会長: 松下敏夫(鹿児島産業保健推進センター)

問合せ先: 鹿児島産業保健推進センター

〒892-0842 鹿児島市東千石町1-38

商工会議所ビル6F

TEL 099-223-8100 FAX 099-223-7100

E-mail sanpo46@mui.biglobe.ne.jp

(8月末現在)

図1 健康に関する基本理念

社員の健康は各人の幸せの源泉であるとともに、生産活動に不可欠な条件であることを認識し、以下の理念を掲げる。

1. 社員は自らの健康に留意し、心身ともに充実した会社生活を送ることが出来るよう努力する。
2. 組織のリーダーは常に部下の健康状態と職場環境に配慮するとともに、自らも率先して健康づくりに努力する。
3. 会社は社員の健康づくり活動を支援し、環境づくりを推進する。

平成13年 4月2日 旭化成株式会社 延岡支社

図2 旭化成延岡支社健康づくり活動の全体図

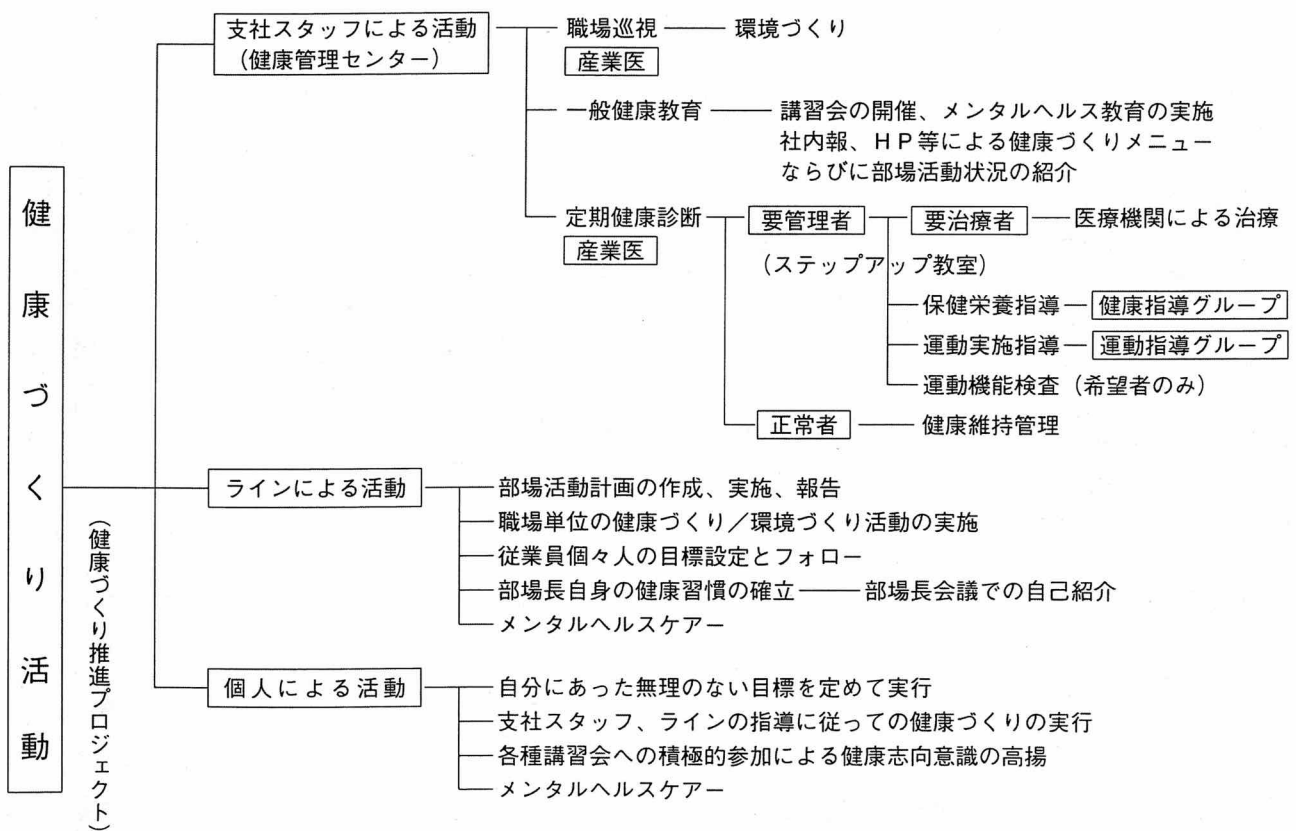
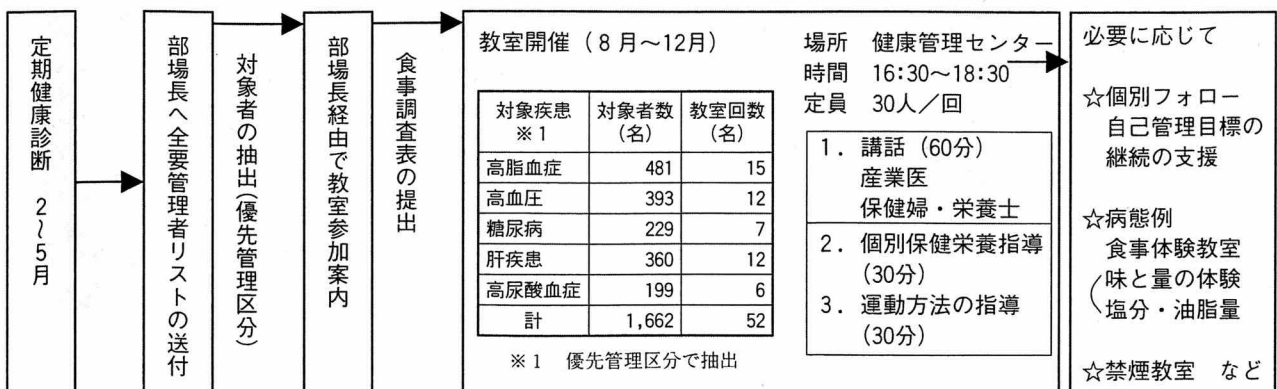


図3 ステップアップ教室 流れ図



本部理事会報告及び地方理事会報告

本部理事会報告

平成13年度第1回理事会(平成13年6月9日(土))での主な審議事項について報告する。

- 1. 産業衛生技術部会について部会規定案を検討したが、当面部会内規とすることで部会を発足させることを承認した。中明賢二部会長・田中勇武・近藤充輔副部会長及び幹事等を承認した。さらに平成13年度の事業計画(案)を承認した。
2. 労働衛生関連法制度検討委員会のあり方に関する委員会審議の経過が報告され承認された。
3. 産衛誌・J O Hの電子配信について前向きに検討することとした。
4. 学会総会の参加登録の電子化について、検討することで承認された。
5. 第12回産業医・産業看護全国協議会は、平成14年10月25・26日に熊本産業文化会館で小山和作企画運営委員長、高木勝・本川真弓副委員長として開催されることが報告された。
6. 産業保健専門職の倫理指針について、冊子作成が提案され了承された。
7. 第74回日本産業衛生学会の参加者は、会員1,675名、非会員227名と報告された。
8. 役員選挙について日程・方法はほぼ前回と同じであると報告された。
9. 産業保健生涯教育ガイドライン要綱について、雑誌に内容を掲載し、広く会員の意見を反映する形で最終案をまとめる予定であると報告された。(田中勇武理事)

九州地方会理事会報告

平成13年度第1回九州地方会理事会が、平成13年7月6日(金)午前8:30~9:30まで、博多区吉塚の博多サンヒルズホテルにおいて、理事13名、監事2名、幹事1名、13年度学会長1名、事務局1名の出席のもと開催された。議題は、

- 1. 平成12年度第2回理事会議事録要旨(案)の確認について
2. 平成12年度事業報告及び決算報告について
3. 平成13年度事業計画及び予算(案)について
4. 平成13年度地方会学会の開催について
5. 平成14年度地方会学会の開催地について
6. 地方選挙管理委員会委員の委嘱について

- 7. 平成14年度12回産業医産業看護全国協議会の開催について
8. 地方会各理事分掌事項について
9. その他
であった。

なお、平成14年度地方会は、松下敏夫(鹿児島産業保健推進センター)学会長のもと、鹿児島市で開催予定である。

編集後記

熱中症対策に追われた酷暑も終わりました。前号の産業看護研究会に今号の九州地方会学会と、産業看護部会の諸姉には長文の原稿依頼が続きご苦労をおかけしました。御陰様で参加できなかった会員の方々にも会の雰囲気伝わった内容となりました。

次号は、新年号の予定です。編集事務局では皆様の年頭所感その他ご寄稿をお待ちしております。また、同号第1面を飾るカラー写真を募集しますので、ふるってご投稿をお願いします。(工藤記)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成13年 8月31日

- 編集正責任者:三角 順一(大分医科大学)
編集副責任者:東 敏昭(産業医科大学)
編集委員:青木 一雄(大分医科大学)
青山 公治(鹿児島大学)
石竹 達也(久留米大学)
市場 正良(佐賀医科大学)
畝 博(福岡大学)
大村 実(九州大学)
小柳 敦子(日赤熊本健康管理センター)
新城 正紀(沖縄県立看護大学)
永田 耕司(長崎大学)
日笠 理恵(福岡県市町村職員共済組合)
前原 正法(宮崎医科大学)
宮北 隆志(熊本大学)
吉積 宏治(産業医科大学)

(五十音順)

<編集事務局連絡先>

〒879-5593 大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1-1
大分医科大学公衆・衛生医学(II)講座
(担当:青木、工藤、園田)
TEL (097)586-5742
FAX (097)586-5749